

料金別納郵便



萩 田原崇雄 展 —春隣の茶陶—

令和7年2月12日(水)~17日(月) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日17日は午後5時まで)

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

陶歴	昭和 57 年	山口県長門市に生まれる
	平成 17 年	東京藝術大学 卒業制作展 菅原賞
	平成 19 年	同大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 修了
	平成 22 年	美濃にて修行 (師 豊場恒也先生)
	平成 23 年	父 十三代 陶兵衛に師事 作陶に入る
	平成 28 年	日本伝統工芸展 入選 (以後7回入選)、山口県美術展 優秀賞
	平成 29 年	萩傳流一若手作家六人展一 (柿傳ギャラリー)
	平成 31 年	山口伝統工芸展 日本工芸会山口支部長賞
	令和 2 年	日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国展「鑑賞」部門 奨励賞
	令和 6 年	エッフェル塔茶会【フランス・パリ】 現在、日本工芸会 正会員

萩焼といっても、窯の場所によって大きく二つに分かれます。一つが山口県の萩市エリアで、こちらには坂高麗左衛門窯、三輪窯、岡田窯などがあります。もう一つが萩市から西へ車で30分の所にある長門市エリアで、今回、ご紹介する田原崇雄さんの陶兵衛家、坂倉新兵衛家、新庄貞嗣家などがあります。田原家のお向かいさんが新庄家、新庄家のお隣が坂倉家という風に、スーパの冷めない間柄のご近所さんで、それぞれの陶家が仲睦まじく助け合って生きておられる、そんな微笑ましい長門の皆様です。陶兵衛窯の近くには、蜜の名所である音信(おとずれ)川という素敵な名前のついた川や、私も大好きなとろっとした名湯の長門湯本温泉があります。

さて、弊廊で二年振りとなる本展は、最新作の茶陶やうつわなど70点を発表いたします。裏面の「萩茶碗」は、外側の移り変わる景色が美しく、端正な形と相まって、抹茶の緑も映えそうです。崇雄さんは、裏千家流の茶の湯の稽古で培われた経験から伝統的な茶道具やうつわを作る一方、工具や鉄道をモチーフにした遊び心満点の革新的な茶道具やうつわも作られています。かくいう私も、持ち手が工具のサンダーになっている彼のマグカップを日常使いで愛用しています。一杯のお水を飲むのにも、ちょっとしたこの遊び心が日々の生活を彩ってくれています。

春が隣で待っているまだ寒い季節ですが、ご清覧をいただき、若き陶工に忌憚のないご指導を頂ければ嬉しゅうございます。

店主 安田尚史

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com

公式Instagram



